かほくがた

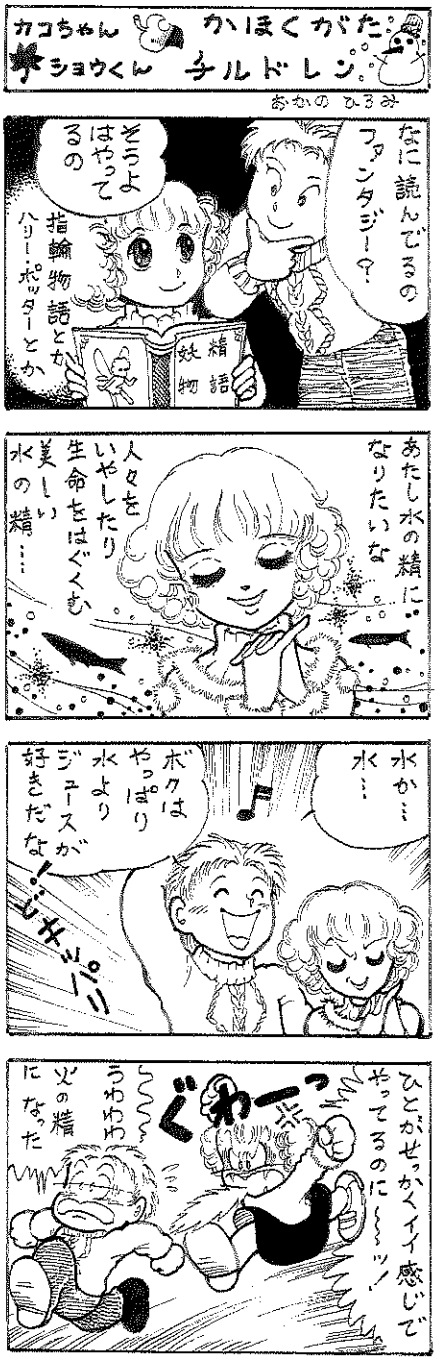
河北潟湖沼研究所通信　Vol.8 No.2

# 河北潟の水辺の面影をもとめて
## ―第２６回河北潟自然観察会―

26回目となる河北潟自然観察会は、10月6日におこなわれました。薄曇りの天候でしたが、新しく造成された「こなん水辺公園」や金腐川河口周辺などを探索しました。

「こなん水辺公園」は、今年開園したばかりの新しい公園です。これまでの公園とは違い、自然をテーマとして、昔の河北潟の水辺の風景を再生することを目指しています。設計の仕方や管理の方法など不十分な点も目立ちますが、少しづつ野生生物が住みついています。今回の観察では、とくに昔の農業を再現した水田のなかに、結構多様な水生生物が確認できました。また、カヤネズミの生息を確認するため、今年巣が確認されている金腐川河口を探索しましたが、今回は特徴のある球状の巣は確認できませんでした。

かつての水郷の復元を目指した新しい水辺と、水郷の名残の水辺の両方を観察して、参加者どうし、河北潟の水辺の将来について語り合いました。




# 学習　水質の話 1

私たちの身近な場所にあるさまざまな水。水道や地下水、川の水や河北潟の水。これらの水は、程度の差こそあれ私たちの生活に密接に関わっています。飲み水だけでなく、持続的に人類が生存するために、湖や川の水への関心が高まっています。昔は綺麗だった河北潟も水質が悪くなった、水が汚れたといわれます。そこで今号から数回に分けて、河北潟とは切っても切れない関係の水質のお話しをしたいと思います。まずは、水の汚れそして水質って何というお話しからです。

水の中には、いろいろなものが溶けています。酸素や二酸化炭素、さまざななミネラル類、下水から出てくる食べかすや油、田んぼから流れてくる農薬や肥料など。こうした水に溶けているいろいろな物質が水質を決めています。よく水が澄んでいる・濁っている、汚れている・きれいだということをいいますが、これも水質を表す言葉です。しかし、水に溶けている物質に注目すると、もっと厳密にあるいは科学的・客観的に水質を評価することができます。水質を正しく把握できれば、その水の問題点や改善方法がわかります。ですから、水の中に溶けている物質について、そして水質について正確に理解することはとても大切です。

もし川や湖の水の中に、猛毒が溶けだしたららどうなるでしょう。少量でも飲むことはできません。そこに生息している魚など水生生物は死滅してしまいます。このように水の中に毒性のある化学物質や重金属が混じることを「汚染」といいます。一方生活排水のなかに含まれる食べかすなどは、それ自体はもともと食べ物ですので毒ではありません。また、肥料も作物を育てるためのものでそれ自体には毒性はありません。これらの物質は有機物や栄養塩類と呼ばれ、ある限度内の量であれば生物には悪影響を与えません。ただ多すぎると水が濁ったり腐ったりする現象が起こります。これを「汚濁」といいます。

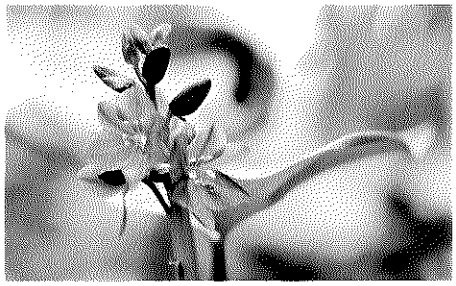
ところで、水の中に何も含まれていなかったらどうなるでしょう？「水清ければ魚棲まず」というように、水の中の生物も生存できません。汚濁の原因物質となる有機物や栄養塩類は、実は生物にとって重要な栄養源なのです。「魚は森に着く」というように、森の栄養分（有機物やミネラルなど）が川に流れ込み海へと流れることによって豊かな漁場がつくられます。ですからほんとうは、水の中に有機物が入ることは「良いこと」なのです。

それではなぜ、「汚濁」という問題が起こるのかというと、その水域に本来あるべき生態系が乱れていたり、過剰に汚濁物質が供給されるためです。　（文：　高橋　久）

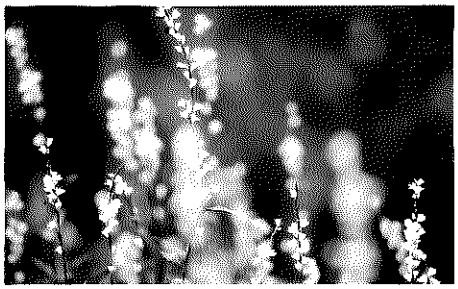
# カレンダー『河北潟　－水辺植物の面影－』 撮影にあたって

生物委員会　白井　伸和

数年前から、河北潟周辺の水生植物について、少しずつですが調査を進めてきました。河北潟が干拓された時点で、水辺環境は一変しており、原生的な水生植物群落はほとんどないことは、当初から予想はしていましたが、それでも、干拓地内の水路や、周辺地域の水田地帯などから、最近ではあまり見られなくなった稀少種がいくつか確認されました。そういった植物たちがどのような経緯で今、その場所に生えるようになったのかは知る由もありませんが、少なくともそれらの多くは、河北潟が干拓されるずっと前から、この地域に存在していた植物の生き残りあるいはその子孫にあたるのではないかということは言えるでしょう。現在、河北潟周辺では外国から入ってきた帰化植物など、もともと河北潟にはなかった植物がどこへ行っても目に付くようになってきていますが、わずかばかり生き残った水辺の水生植物たちを探してまわるうちに、そういった水辺の植物たちの生えている様子、そしてその面影の中にこそ、昔の河北潟の姿が残されているのではないかという気がだんだんしてきました。



河北潟の植物をテーマにしたカレンダーの企画へのお誘いがあったとき、河北潟では少なくなってきた貴重な水辺の植物を中心にした内容にするという構想でお引き受けすることにしましたが、少しでもよい環境が残されている場所と組み合わせて紹介することにしました。撮影は昨年の8月より、河北潟の周辺では今のところ1ヶ所でしか確認できてい



ないササバモから始めました。その後、毎月1種類以上の追加を目標にしましたが、植物の写真を撮るというよりは、その植物の生えている場や空気の中に、昔の河北潟の片隅にいる錯覚をおぼえるような、そんな小さな風景が撮れたらという思いで、歩いてまわりました。現在の河北潟の周辺で、そのような場所を見つけること自体が、なかなか大変なのですが、ハス田の中にミズアオイの生えるいい感じの水路があったり、休耕田にクログワイの大群落が見つかったりと、そういった予期せぬ出会いもあって、「まだまだいいところが残っているじゃない。」とうれしくなることもありました。ササバモの後は、9月－ミズアオイ、10月－サクラタデ、11月－セイタカヨシ、12月－ハンノキと撮り進め、さらに1月－ミズワラビ、2月－ミクリ、3月－エビモ、4月－トチカガミ、5月－フトイ、6月－アサザ、7月－クログワイと、なんとか1年間で12種類をとり上げることができました。しかし、その後の短い間にも、クログワイの群生地は刈り取られてしまいましたし、サクラタデ自生地は圃場整備のために完全に消滅しました。それらの生育場所のほとんどは、特別に保護されている場所ではありませんし、法的に保護が義務づけられているわけでもありません。水辺の植物が生き延びていくのはなかなか困難なようです。失われてゆく自生地を目の当たりにするたびに、私たちは何かできなかったのだろうかと、いつも苦しい思いにさせられます。

## お知らせ

### ●2003年カレンダー
### 「河北潟－水辺植物の面影－」が完成

好評をいただきました2002年カレンダー「鳥たちの河北潟」に続く河北潟シリーズ第3弾として、2003年カレンダー「河北潟－水辺植物の面影－」が完成しました。今回は、河北潟湖沼研究所生物委員会でも活躍されている植物学者の白井伸和氏が撮影した、河北潟では消滅が危ぶまれている希少な水草類の写真を掲載しています。

各月ごとに河北潟の水生植物のさまざまな表情とともに、河北潟の季節ごとの水辺の風景が写し出されています。河北潟周辺ではもうほとんど確認できなくなったトチカガミ（4月）やもう群落自体が失われてしまったサクラタデ（10月）などを、カメラに納めることができました。その他、ミズワラビ（1月）、ミクリ（2月）、エビモ（3月）、フトイ（5月）、アサザ（6月）、クログワイ（7月）、ササバモ（8月）、ミズアオイ（9月）、セイタカヨシ（11月）、ハンノキ（12月）、それぞれの季節にあわせた写真が掲載されています。

このカレンダーは、1月から6月までの上半期と7月から12月までの下半期に分けた両面使用で、携帯に便利なサイズ（閉じた状態でA5判）となっています。書き込み可能で、壁掛け用または携帯用のスケジュール帳としてもお使いいただけます。

カレンダーは一部800円で販売します。カレンダーの購入をご希望の方、詳しくお知りになりたい方は、インターネットのホームページ「チュウヒのふるさとかほくがた」(URL http://kahoku.soc.or.jp)をご覧下さい。

### ●「河北潟未来構想」募集中

前号でもお知らせしましたが、河北潟と干拓地の有効な利用を考えるため、「河北潟及び干拓地の未来構想」の募集がいよいよ始まります。

カレンダーの表紙：蓮田の間を流れる水路に群生しているミズアオイ

すばらしい河北潟の自然を守りながら、干拓地農業の発展と地域の未来を考えるこのイベントにぜひご参加下さい。みなさまの応募をお待ちしております。募集要項の詳細は、ホームページ(URL http://kahoku.soc.or.jp)等に掲載される予定です。

同時に、この取り組みをともに支える「構想募集」実行委員会のスタッフも引き続き募集しています。ご興味のある方は、河北潟湖沼研究所本部(tel.076-286-0433)までお問い合わせ下さい。

### ＜ 編集後記 ＞

今年は真夏のような4～5月とその後の梅雨のような長雨を経験したと思っていたら、11月初旬とは思えないような寒い日が続いています。早々と冬を告げる雷で我が家の電話も故障してしまいました。河北潟では、最近の暖冬で越冬したホテイアオイが大増殖するなどの異常事態も起こっています。変化する地域環境の中で、長期的な展望をもって、微力ながらも環境の改善にとりくんいきたいと思います（H）。

「かほくがた」通信　VOL.8　NO.2
2002年11月12日発行
発行所　河北潟湖沼研究所友の会
〒920-0051　金沢市二口町ハ58
河北潟湖沼研究所金沢事務局内
TEL：076-261-6951　FAX：076-265-3435